

東京教区時報

第1003号
2006年7月30日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nskk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

先日、エルサレム教区の司祭をお迎えして、札幌でもパレスチナの現状を聞く集会がありました。「平和の君」であるイエスが歩まれた聖地での平和がまだまだ遠いことに心が痛みました。「平和」、それは私たちの切なる願いです。平和を祈るこの八月、平和について聖書から少し黙想したいと思います。

「十字架によって敵意という隔ての壁を取り壊し、一つの体にしてくださった」。このキリストの平和の福音のおかげで、「わたしたちが一つの霊に結ばれて父なる神に近づける」(エフェソ2・14)と聖書は教えています。平和の前提として主の十字架があったというのです。十字架とは、自分を無にして僕の身分になり、へりくだって、命まで差し出してしまうことです(フィリピ

《特別寄稿》

平和に向かって

主教 植松 誠

2・6)。

平和を求めて祈るとか、行動するということは、そこに痛みが伴います。自分の大切になっている権利、もの、時間、お金などを敢えて犠牲にしていくなだけの覚悟が要るのです。痛みを伴う自己犠牲は、自分を正当化したり、自己を主張することをしないで、十分に人の言うことに耳を傾け、その人のあるがままをまず受け止めることです。それが難しければ難しいほど、主の十字架の御苦しみを思い浮かべるのです。

私たち一人ひとは主によって愛され、主の十字架によって赦された者です。そこから私たちは共に出発するので、十字架の痛みのある平和に向かって、互いに励まし合って歩んでいきましょう。(首座主教・北海道教区主教)

▽池袋聖公会主催(正義と平和協議会共催)で恒例「敗戦記念日祈禱会」を8月15日(火)19時から同教会で開く。夕の礼拝後「平和祈念講話」世の友われらを捨て去るときも「講師・藤澤一清牧師」日本バプテテスト連盟花小金井キリスト教会」と懇親会(「すいとん」あり)…。照会電話「同教会03(3986)4709」。

▽東京聖マリア教会では8月27日(日)に二つのプログラムを企画し、城南グループほかに参加を呼びかけている。①**聖マリア教会の将来を考える会**「語り合い・13時〜15時」②**屋形船納涼会**「金杉橋から貸切屋形船で東京湾の夜景と夕食を楽しむ趣向・17時〜20時(なるべく①②セット参加を希望)②の参加費「大人(中学生以上)6千円・小学生3千円。詳細照会・申込み」岩浅紀久宛(090-11730190001)、8月13日まで(定員あり)。

▽聖公会神学院「教会音楽集 中講義『日本聖公会聖歌集』を通して出会う礼拝音楽」今これからの賛美と感謝を深めるために」が9月7日(木)・8日(金)の両日4セッションで。講師は聖歌集改訂委員の宮崎光司祭(清瀬聖母教会)・加藤啓子(聖三一教会オーガニスト)。第1セッション「日本聖公会聖歌集」の概要(10時50分〜12時20分)、第2「式文用曲譜(サービスマニージャック)について(13時30分〜15時)、第3「聖歌について(2日目、第1と同時間)、第4「礼拝における聖歌の選び方第2と同時間)」。聴講料「1セッション2千円。申込締切(受講者の「事前課題レポート」提出期限「8月末日。詳細・申込みなどの照会は同院宛に」電話03(3701)0575」。

▽聖路加国際病院礼拝堂「オルガンコンサート&夕の祈り」9月は、演奏・小野田良子で6日(水)18時30分・19時。

◇**教区HP更新案内**・植田教区主教メッセージ「鍛錬の夏、実りの秋」・イベント案内「教区フェスティバル」・韓国スタディツアー」第2回HP技術者養成講座(申込書付)等・「教区時報」第一〇〇〇号特別号(PDFファイルで)

【学びと働きから】17

沖繩の旅、そして…

聖公会沖繩週間(6月18日～24日)のプログラムに参加するという形で、沖繩の方々にも過大な犠牲を強いてきた国の大和人(ヤマトンチユ)の一人としてこれまで躊躇してきた沖繩への旅を実現する機会が与えられた。名護市辺野古地区を訪れる旅程が直前に削られて政治色が薄くなった今年の旅では、靖国的な発想とは逆に全世界出身の沖繩戦犠牲者の名を敵味方関係無く原語で刻んだ「平和の碑」の前で過ごした時間が永遠のように思われた。

拙稿執筆中、欧米のメディアはイスラエルによるレバノン攻

撃に紙面の殆どを割いているが、果たしてどれだけの人がシヤロン国防相(当時)によって指揮されたベイルート郊外のサブラー及びシヤティエラでのパレスチナ人大虐殺を記憶しているだろうか。対するイスラエル政府は現代芸術家達に莫大な金を渡し、全世界で建国以来のユダヤ人犠牲者の名だけを刻ませた大規模な展示会を繰り返して行かせている。

新約聖書的な愛を碑の形で示してくれた沖繩と、自国民の死者だけを他者に記憶させようという野心を隠さないイスラエル。沖繩の限らない優しさ、ソフト・レジスタンスの前に、神はまだ沈黙しておられる。

聖アンデレ教会 早崎宏平

《今、この教会では…》

浅草聖ヨハネ教会

今年浅草宣教130年を迎えます。バザーもその記念の一環としたいと、準備会がもたれ、出店の確認や奉獻先準備の方法などが話し合われました。人手が足りないという現場の声の中で、例年通り地域にも喜ばれるバザーにするために、工夫と協働できる仲間作りなど、新たな試行錯誤が求められています。日ごろ語られる言葉に耳をかたむけ、私たちが出来る事から実行してみる勇気が与えられるように、そして、今年のバザーの小さな試みが、浅草宣教新しい十年へと、人も祈りも豊かに繋がって行くことができばと願っています。(住谷靖子)

◇8月の代禱・信施奉獻先

▽日本聖公会青年活動のため(8月第一主日)▽在韓被爆者救済のため▽諸聖徒幼稚園のため▽薬物依存リハビリ施設の働きのため

《8月の奉獻先から》

日本聖公会青年活動

2004年に開催された「日本聖公会全国青年大会」は、九州教区の青年の手による草の根の活動「平和を考えるプログラム」長崎に立つ」を全国の仲間で見かちあうことを目的に行われました。これに象徴されるように、今日の聖公会青年活動は、①各教区の青年の主体的関心・課題を、教区や教会の枠を超えて全国の青年相互が共有す

ること、②管区(青年委員会)

主催の様々なプログラムにおいて、「宣教課題」の担い手としての青年相互がこれを分かち合い、またその取り組みについて励まし合うこと、が大きな二つの柱となっています。今夏は「東アジアにおける平和の実現のための協働」をテーマに「日本聖公会青年セミナー」が河口湖において開催されます(8月11～16日)。

(管区青年委員会委員 司祭 八木正言)

▽聖テモテ教会・外濠グルー

プ共催による「納涼祭」が8月27日(日)15時～18時頃、同教会で開催される。夕の礼拝に始まり、新しい聖歌集を歌い、懇親を深めるプログラム。参加

費、男性千円、女性五百円、中学生以下無料。食飲料の持ち寄り歓迎。連絡電話 03(3811)5836。

◆教役者レクイエム

8月16日(水)午前10時半

主教座聖堂

説教 日高馨輔執事

▽司祭関翊▽主教須貝止▽主教今井正道▽司祭佐久間吉太郎▽司祭関屋正彦

◆とこしえの平安

7月20日 安河内 羔浴 (86)

目白

▽教区事務所夏季休暇 8月

14日(月)～18日(金)

▽教区時報8月休刊 教区

フェスティバル特集号を9月3日に通常号を9月10日から発行